

おお大勝利

平成 22 年度山東サッカー部報第 22 号 (11 月 2 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

楯岡、鶴工を撃破 ベスト4進出

10月30日(土)、31日(日)、高校サッカー選手権大会山形県予選の三回戦、準々決勝が神室産業高校にて行われました。三回戦の相手は、名将ヌマシンこと大沼晋先生率いる楯岡高校。大沼先生は平成11年度から18年度まで8年間にわたり山東サッカー部の顧問をされた方。3年の教育センター勤めを経て、今年度より楯岡高校に赴任され、早速そのサッカーセンスを買われてサッカー部顧問に復帰。顧問今野にとって平成18年度に1年間一緒に顧問をさせていただいた恩人に当たる方(昼夜を問わずお世話になりました)。県新人に続いて再び選手権で会いまみえようとは、やはり因縁浅からぬ仲ということか。

試合が始まるとまさに一進一退。楯岡のDFは粘り強く、また中盤にはボールコントロールに優れた選手が配置されており、やはり手強い。山東はY1在籍、楯岡はY3在籍であり、「カテゴリーの違い」を見せるのが筋でしょうが、それを完璧にできるほど山東に実力が備わっていない。重たいピッチ状況でボールがイレギュラーをする中、山東のミスが多い。イレギュラーのない(人工芝のような)ピッチで練習するとボールコントロールに気を取られることが少ないので、周りを良く見る癖に繋がり巧い選手が育つ、とはいうものの、巧い選手ならピッチ状況が悪くても良いプレーができるというのもまた確かな話。経験的にも、技術のしっかりした選手は雨でどろどろのピッチでも間違いなく巧いと言えます。イレギュラーするピッチに右往左往するというのは、技術的にレベルの低い証。また、ここ最近集中して取り組んできたヘディングも、落下地点を読み誤るミスの連続で、しっかり跳ね返せない¹。イライラのつもの前半。40分を過ぎ、アディショナルタイム(いわゆるロスタイム)に入ったころ、相手ゴール前でゴタゴタからルーズボールを詰めて先制。前半を1-0で折り返す。後半はようやく落ち着きが出てきて2点を追加し、結局3-0の勝利。後半も低調ではありましたが、最終的には辻褄を合わせた試合といえるでしょう。

試合後は、会場校となった新庄神室産業高校とB戦²。Bチームは、A戦の不甲斐なさを忘れさせるほど、厳しい球際・流れるようなパスワークを見せる。県新人後、ヘディングの競り合い・1対1の対応に焦点を当てて課題解決のトレーニングをしてきましたが、それが実を結びつつあるのを実感させられる。特にユウトとトシの2年生サイドバックが素晴らし

¹ サッカー部顧問の間でも、近年落下地点を読み誤る選手が多いということが話題になったことがあります。以前はサッカー少年も野球をして育ったので、フライを取る中で自然と落下地点を読む感覚が身についたのだが、最近は野球をしてこなかったサッカー少年が多く、落下地点の読めない選手が排出されているのではなはないか、というのが、その時顧問間で話し合われた原因でした。そんなこともあり、山東サッカー部では夏にソフトボール大会を実施するなど、色々なことを試してきたのですが・・・。

² 詳しく書きませんが、実は31日も公式戦後、新庄神室産業高校とB戦をしていただきました(連戦!)。連続で面倒見ていただき、神室産業の皆さん、ありがとうございました。

い出来。「Bは素晴らしいな～、Aも良い刺激を受けてくれないかな～」などと思わせましたが、30日の出来だと次戦は厳しい試合となること必至。そんなことを痛感させられながら、新庄を後にしました。

31日、対戦相手はやはりY1の鶴岡工業。スピードある選手を抱えており、攻撃の切れ味はY1でも1、2を争う。山東は今期Y1で鶴工に2連敗。特に初戦の敗戦は山東の3年生もいた春のもの。鶴工は、県総体では準決勝で羽黒を最後まで苦しめ、3位となった。はっきり言って強敵です。ただこれまでと違い、Y1という同じカテゴリーのチームとの対決なわけで、「負けられない」という変なプレッシャーがない（負けたくない気持ちは当然ありますが）。ピッチは昨晚からの雨で少し水たまりもある（昨日よりさらに）重いコンディション。山東は11人全員が取替え式のシューズを履いて、万全の態勢で試合に臨む。

立ち上がり、意外にも山東が押し込む。昨日とは打って変わって、早い球離れ・早いフォローアップにより、攻撃につながりがある。特に左サイドからの攻撃に迫力があり、カル（カルロス＝ダイゾー）からシマヌキ、メッツからシマヌキなどとうまい具合にシマヌキを使うことができている。ただビッグチャンスを作るまでに至らず。すると時間を追うごとに鶴工が地力を見せ始め、スピードに乗った仕掛け（ドリブル）からチャンスメーク。たまたまDFのファールが多くなってしまふ。「止まれない（Stopできない）男」郷（Go）が、スピードに乗ってボールをいち早く触る相手選手に遅れて激突し、イエローカードをもらう。県新人決勝と同様に、退場の危険性が出てくる。ベンチから激しすぎるプレーを自重するよう促すものの、かなり不安。「アイツならやってくれる、やるに違いない（やってほしくないが）」と心配していると・・・今度は同じくDFのリョウが相手のドリブルを（ボールとは無関係に）正面から止めてしまいイエローカード、そしてPK献上。「リョウ、お前もか・・・」。ただ、スピードに乗った仕掛けを許している時点で勝負ありともいえ、チーム全体のプレスが甘くなってきているということ。あとは、PKに強いと父子ともに認めているGKヤスが言行一致の活躍をしてくれれば、と期待して見ていると、ヤスがPKをしっかりセーブ。学校の欠席が減少するとともにGKにおけるポカも減り、2年の後半になり安定感を見せるヤスがビッグセーブ。何とか前半を0-0で切り抜ける。

後半、早々に右からのCKをゲット。すると嶋貫の左足から放たれたボールは素晴らしい軌道でゴール中央へ。それに反応したのが山東の誇るブラジル人カル（秋になり日本人に逆戻りしてきましたが）、ヘディングで合わせ先制！！時計を見ると後半2分。「ちょっと早すぎるな～（もっと遅い時間の得点の方が逆転されにくく良かったけど）」などと言えるだけ、運が良い。その後、試合展開は一進一退。鶴工のディフェンスとオフェンスの間を、山東MFが細かくボールをつなぎ中盤でゆとりを作りながら見せる攻めも、なかなか見ごたえがある。するとまたもや！カルが、センドウの味方をも欺くスルーパスを受け、追加点を決める。これはいいよ、もしかするともしかするか。しかし敵も然る者、後半の後半は終始山東を押しこみ、怒涛の攻撃を見せ、バー・ポストを叩くこと計3回。本当に迫力ある攻撃でしたが、山東選手全員の粘り強い守備と神室産業保有のゴールを味方につける幸運により無失点でタイムアップ。何なんだこのチームは・・・顧問ですら幸運なのか実力なのか、何なのか、よく分からない山東新人チームは準々決勝も突破してしまいました（本音です）。

新庄まで多くの保護者の方々、OBの皆様に応援に駆け付けてくださいました。ありがとうございました。次戦もよろしく願いいたします。

11月3日 選手権準決勝 VS 羽黒高校 11:00～ @天童第二（人工芝）